

一般社団法人日本家族看護学会
2023 年度定時社員総会 議事録

日時:2023 年 6 月 10 日(土)15:00-16:00

場所: Zoom による開催

参加者(敬称略・順不同):

理事/社員:荒木 暁子、池田 真理、井上 玲子、伊東 美佐江、影山 葉子、塩飽 仁、梶谷 みゆき、
荒木田 美香子、今野 美紀、佐藤 伊織、山崎 あけみ、小林 京子、小林 裕美、松坂 由香里、
杉浦 太一、浅野 みどり、相墨 生恵、池添 志乃、中野 綾美、長戸 和子、藤井 淳子、
奈良間 美保、内 正子、服部 淳子、法橋 尚宏、本田 順子、門間 晶子、野間口 千香穂、
野嶋 佐由美、涌水 理恵、鈴木 和子、濱田 裕子

監事:石垣 和子

学術集会長:山崎 あけみ(第 30 回)、井上 玲子(第 31 回)

推薦理事:西垣 佳織

幹事:杉村 篤土、高山 充

事務局:川出

I. 開会の辞

- ・荒木理事長より、開会の挨拶があった。
- ・井上理事より社員 48 名のうち、社員総会開催までに委任状の提出者 7 名、議決権行使者 5 名の連絡を受けており、社員総会開始時における社員の出席者は 33 名で合計 48 名となり、全社員の過半数を満たしており、定款 22 条に基づき、定時社員総会は成立した旨が説明された。
- ・定款 20 条に従い議長は荒木理事長が務めることが説明された。

II. 議事録署名人選出

- ・理事定款第 23 条により、社員総会の議事録には議長と社員総会において選任された議事録署名人が記名押印または署名することと定められている。自薦・他薦はなかったため、議長より、相墨 生恵氏と影山 葉子氏の推薦があり、議事録署名人を務めることとなった。

III. 決議事項

- ・荒木理事長より、決議は、Zoom の投票機能を用いること、1 号議案から 4 号議案までであるが、投票数の集計を円滑におこなうため、1 議案ごとに決議を行うことの説明があった。

1 号議案 2022 年度決算報告および監査報告 (資料 1)

西垣理事より、2022 年度の決算報告がされた。その後、石垣監事より、監査報告がされた。

- ・投票 (Zoom) の結果、「1 号議案 2022 年度決算報告および監査報告」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成 45 票、反対 0 票となり、承認された。

2号議案 2022年度活動報告および事業報告（資料2）

池田理事より各委員会の活動報告があった。

・編集委員会:委員会のWEB開催、機関誌(第28巻)発刊、学術集会での委員会企画、学会誌に対する問い合わせ対応を行ったことが報告された。

・研究促進委員会:第10回家族看護学研究セミナー開催、第8回日本家族看護学研究奨励賞の授賞論文の選考および第29回学術集会内での表彰、国際交流委員会との協働でJFNにアブストラクトの交換等の活動を行ったことが報告された。

・実践促進委員会:家族看護実践セミナー開催、構想委員会との共同企画により、家族看護グッドプラクティスアワード2023の検討会を行ったことが報告された。

・教育促進委員会:委員会の開催、第29回学術集会委員会企画の実施、家族看護実践力を伸ばす研修計画立案に役立つ教育ツールについての研修会開催、セミナーを開催したことが報告された。

・国際交流委員会:諸外国との家族間学会とのネットワークの構築、国際交流委員会セミナーの開催、ニュースレターの発行、メールマガジンでの活動報告掲載を行ったことが報告された。

・広報委員会:2回の委員会開催、ホームページの更新(随時)、メールマガジンの発行(6回)、ニュースレターの発行を行ったことが報告された。

・将来構想委員会:評議員のための活動助成事業支援、第29回学術集会の委員会企画を行ったことが報告された。また将来に向けての構想を検討中であることが報告された。

・社会活動・政策委員会:看保連における活動、診療報酬上の加算要件への参画に向けた家族支援 CNS 活動の現状調査の検討を開始したことが報告された。

・災害対策委員会:会議の開催、家族看護セミナーについてのワーキング会議の開催、セミナー開催を行ったことが報告された。

・利益相反管理委員会:利益相反の適切な管理にむけて、学術集会、編集委員会などのCOI関連も整理したうえで実施体制の検討を行ったことが報告された。

・Covid-19 調査研究プロジェクト:第1回の量的調査の報告作成、学会誌への掲載、第2回の量的調査の実施、コロナ禍における家族看護の困難と技-熟練の家族看護実践者の実践プロセス-質的調査の実施の検討を行ったことが報告された。

・投票(Zoom)の結果、「2号議案 2022年度委員会事業報告」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成45票、反対0票となり承認された。

3号議案 2023年度予算・活動計画（資料3、資料4）

・佐藤理事(編集委員会)より、委員会の開催、学会誌第29巻の刊行、J-stageの登載(過去～現在までの分)、学術集会にてセミナー開催、が予定されていることが説明された。論文掲載の区切りを無くし採択からオンライン掲載までの時間短縮となる旨、また、投稿システムの改修とチェックリストの運用を開始予定であることが説明された。

・小林理事(研究促進委員会)より、第11回看護学研究セミナー、第12回家族看護学研究セミナー、日本家族看護学研究奨励賞受賞の表彰、国際交流委員会と協働でJFNのアブストラクトの交換を予定していることが説明された。また、家族看護研究の重要研究課題を抽出する活動を検討している旨が説明された。

・藤井理事(実践促進委員会)より、家族看護実践セミナーの開催(基礎編・応用編)、第30回学術集会にて家

族支援専門看護師による対面・よろず相談の開催、第1回の家族看護グッドプラクティスアワードの開催、家族支援専門看護師とのネットワークミーティングの開催を予定していることが説明された。

・長戸理事(教育促進委員会)より、教育ツールの活用の促進としての委員会企画を学術集会にて開催を予定していることが説明された。また、看護基礎教育に関する教育ツールの作成等につながっていくような活動、学際的な学習のセミナーの企画を検討していることが説明された。

・本田理事(国際交流委員会)より、諸外国の家族看護学学会・研究機関との交流・ネットワーク構築を目指し、オーストラリアニューージーランド支部との連携、アジア圏との連携を検討していることが説明された。また、委員会内のスモールグループ活動支援、国際交流活動について会員向けの情報提供、第30回学術集会にて国際交流委員会セミナーの開催を予定していることが説明された。

・山崎理事(広報委員会)より、ホームページを通じた情報発信、年6回のメールマガジン、ニュースレターの発行を予定していることが説明された。

・井上理事(将来構想委員会)より、評議員のための活動助成事業の一部要綱の見直し、募集、第30回の学術集会委員会企画が予定されていることが説明された。また、グランドデザインの構築、家族支援専門看護師の診療報酬獲得に向けた調査、30周年記念誌編纂作業の実施、グッドプラクティス賞の創設、名誉会員および賛助会員のための細則の作成および推薦者を検討していることが説明された。

・浅野理事(社会活動・政策委員会)より、月に1度の検討ワーキングの会議、診療報酬上の加算要件への参画に向けた家族支援 CNS 活動の現状調査を予定していることが説明された。また、他学会および他団体との連携をしながら診療報酬上の加算要件に参画できるように検討していることが説明された。

・河原理事(災害対策委員会、代読・井上理事)より、家族看護セミナー、30回学術集会での委員会企画が予定されていることが説明された。

・池田理事(利益相反委員会)より、対象者への申告書類を送付し運用を開始した旨が報告された。

・池田理事(Covid-19 調査研究プロジェクト)より、新型コロナウイルス感染症流行下の看護職における家族看護の困難と技 第3回目量的調査の実施、コロナ禍における家族看護の困難と技-熟練の家族看護実践者の実践プロセス-質的調査の実施、新型コロナウイルス感染症拡大下での家族の機能と経験-Photo elicitation methods による探索-の実施を予定していることが説明された。

・西垣理事(会計担当理事)より、資料4に基づき、2023年度予算案について説明があった。配布された資料の一部に誤りがあったが、実際の財産額に影響はないことが説明され、誤りのあった箇所について修正がなされた。

・投票(Zoom)の結果、「3号議案 2023年度予算・活動計画」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成44票、反対0票となり承認された。

・荒木理事長より、定款第17条・社員総会決議事項に次年度活動計画は含まれていないが、法人化し活動が活発化している現状を踏まえて、今回は議案に含め決議を行った旨が説明された。

4号議案 第32回学術集會長の選任

・荒木理事長より、第32回の学術集會長について、下記の通り提案された。

第32回学術集會長:札幌医科大学 保健医療学部看護学科教授 今野 美紀 氏

・投票(Zoom)の結果、「4号議案 第32回学術集會長の選任」については、事前の委任状と議決権行使を含め、賛成44票、反対0票、となり承認された。

・今野美紀第 32 回学術集会長より挨拶があった。

IV. 報告事項

1. 庶務報告

1) 会員・会費納入状況報告(資料 5)

・井上理事より、資料5に基づいて 2023 年 4 月 30 日現在の会員数は 1487 名、そのうち 500 名より 2023 年度の会費支払いがあったと報告された。

2) 理事会報告(資料 6)

・井上理事より、資料6に基づいて 2022 年度は 6 回の定期理事会、2 回のみなし理事会、1 回の臨時社員総会、第 29 回学術集会にて会員集会を開催したことが報告された。

・2023 年度は、2023年6月10日までに2回の理事会を開催したことが報告され、今年度内に役員選挙を実施予定である旨が説明された。

2. 第 30 回、第 31 回 学術集会報告

1) 第 30 回学術集会報告(資料7)

・山崎理事より、資料7に基づいて、登録演題の査読が完了し、修正後の抄録が集まったことが報告された。

・プログラムの詳細は、ホームページや SNS 等から適宜配信している旨が説明された。

・特別講演、教育講演会 I・II、シンポジウム I・II に加えて、理事会企画として荒木理事長より30周年記念シンポジウムの開催、また開催期間中に行われる会員集会にてグッドプラクティス賞の表彰等が行われる旨が説明された。

2) 第 31 回学術集会報告

・荒木理事長より、議題に漏れがあったが、第 31 回学術集会についても報告がある旨が説明された。

・井上理事より、第 31 回学術集会の開催を 2024 年 9 月 14 日、15 日に鎌倉芸術館で行う予定であることが報告された。

・学術集会のテーマは「今語り合おう！臨床家の実践知、研究者の探求知、そして家族の体験知 ダイナミックな融合をめざして」であることが報告された。

3. 設立 30 周年記念誌の編纂について

・荒木理事長より、記念事業の一環として、理事会で 30 周年記念誌を企画したことが報告された。

・発行は 2024 年度に行えるよう準備を進めている旨が説明された。

4. グランドデザイン構築について

・井上理事より、将来構想委員会を主幹として四つの委員会で、学会のグランドデザイン構築に向けての検討が行われていく旨が説明された。

・第 30 回学術集会の理事会企画にて草案の説明を行い、ワーキンググループ等で重点活動目標案等を作成、それに対して会員からパブリックコメントを募集し、2024 年度総会にてグランドデザインを提示予定であることが説明された。

5. 2023 年度家族看護グッドプラクティス賞 について

・藤井理事より、グッドプラクティス賞は、家族看護の実装や普及にかかる実践活動を行っている団体や個人に対して、家族看護の実践力を高め、次世代の人材を育成し、支援することにつながることを目指していることが説明された。

- ・今年度第1回目として13件の応募があり、慎重かつ厳格な審査を実施し、1件に賞を授与する予定であることが説明された。
- ・第30回学術集会の会員集会にて表彰式を開催し、受賞者には学術集会の委員会企画で内容の発表を行う予定であることが説明された。

V. 閉会の辞

- ・荒木理事長より、閉会の挨拶があった。今年度も活発的に委員会活動等が行われる予定であり、評議員の先生方には積極的な参加・意見を頂きたい旨依頼があった。

2023年 6月10日

議長

荒木 暁子



議事録署名人

相墨 生恵



議事録署名人

影山 葉子

